

第102回火山噴火予知連絡会 全国の火山活動について

浅間山では、6月以降火山活動に大きな変化はみられず、やや活発な状態が続いています。今後も火口付近に影響する程度の小規模な噴火は引き続き発生する可能性があります。

阿蘇山では、4月14日のごく小規模な噴火以降、噴火の発生はありませんが、火口底の湯だまりの表面温度が高いなど、浅部の熱的活動は活発で火山活動はやや活発な状態が続いています。今後、火山活動が再び活発化する可能性があります。

三宅島では、火山活動に全体として大きな変化はなく火山活動はやや活発な状態が続いています。二酸化硫黄を含む多量の火山ガスの放出は当分継続すると考えられます。

福徳岡ノ場では、7月2～3日に小規模な海底噴火がありました。

全国の火山活動状況は以下のとおりです。

1. 北海道地方

① 雌阿寒岳（比較的静穏な状況）

- ・ポンマチネシリ96-1火口の温度の低下傾向が継続して認められ、地震活動、噴煙活動は共に低いレベルで経過しています。火山活動は**比較的静穏**な状態となっています。

② 十勝岳（やや活発な状況）

- ・62-2火口は噴煙活動が活発で、火口内は高温の状態が続いています。火山活動は**やや活発**な状態で経過しています。火口近傍では注意が必要です。

③ 樽前山（やや活発な状況）

- ・A火口およびB噴気孔群では400℃以上の高温が続いており、火山活動は**やや活発**な状態で経過しています。火口近傍では注意が必要です。

④ 有珠山（静穏な状況）

- ・火山活動に特段の変化はなく、**静穏**に経過しています。

⑤ 北海道駒ヶ岳（静穏な状況）

- ・噴気活動や地震活動に変化はなく、火山活動は**静穏**に経過しています。
- ・わずかな山体膨張は引き続き観測されています。山頂火口では緩やかな温度上昇やわずかな膨張傾向が認められます。

⑥ 恵山（静穏な状況）

- ・火山活動に特段の変化はなく、**静穏**に経過しています。

2. 東北地方

① 岩手山（静穏な状況）

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

② 秋田駒ヶ岳（静穏な状況）

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

③ 吾妻山（静穏な状況 【火山活動度レベル1】）

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

④ 安達太良山（静穏な状況）

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

⑤ 磐梯山（静穏な状況）

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

3. 関東・中部地方、伊豆・小笠原諸島

① 那須岳（静穏な状況）

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

② 草津白根山（静穏な状況 【火山活動度レベル1】）

- ・火山ガス等に若干の変化がみられますが、火山性地震の回数や地殻変動には特段の変化は認められず、火山活動は静穏に経過しています。

③ 浅間山（やや活発な状況 【火山活動度レベル2】）

- ・昨年12月以降、噴火の発生はありませんでした。
- ・深部へのマグマ注入によると考えられる地殻変動は今年6月頃から次第に鈍化して、現在はほぼ停止した状態となっています。
- ・しかし、山頂火口内は高温状態が続き、高感度カメラでも微弱な火映現象がしばしば観測されています。
- ・また、二酸化硫黄の放出量は今年4月以降大きな変化がなく、やや多い状態が続いています。
- ・火山性地震および火山性微動は8月中旬まで減少する傾向を示していましたが、8月下旬以降再びやや多い状態で経過しています。
- ・以上のように、火山活動はやや活発な状態で経過しています。今後も山頂火口付近に影響する程度の小規模な噴火が発生する可能性があります。火口周辺では引き続き注意する必要があります。

④ 御嶽山（静穏な状況）

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

⑤ 白山（静穏な状況）

- ・山頂付近で一時的な地震増加が時々見られていますが、山頂部には噴気は認められず、火山活動は静穏に経過しました。

⑥ 富士山（静穏な状況）

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

⑦ 伊豆東部火山群（静穏な状況）

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

- ⑧ 伊豆大島（静穏な状況 【火山活動度レベル1】）
- ・長期的な山体の膨張傾向は継続していますが、火山活動に特段の変化はなく静穏に経過しています。
- ⑨ 三宅島（やや活発な状況）
- ・今年5月以降、噴火の発生はありませんでした。
 - ・山頂火口からの噴煙活動は活発で、二酸化硫黄放出量は1日あたり2千～5千トンで、依然として多量の火山ガス放出が継続しています。
 - ・一時的な地震増加がみられたほか、空振を伴う低周波地震も時々発生しています。
 - ・地殻変動の傾向に変化は見られず、浅部での収縮、深部での膨脹が続いています。
 - ・三宅島では、今後も小規模な噴火が時々発生する可能性はありますが、火山活動には全体として大きな変化はなく、やや活発な状態が継続しています。また、二酸化硫黄を含む多量の火山ガスの放出は当分継続すると考えられます。
 - ・今後も局所的に高濃度の二酸化硫黄が観測されることがありますので、風下にあたる地区では引き続き火山ガスに対する警戒が必要です。また、雨による泥流にも注意が必要です。
- ⑩ 硫黄島（静穏な状況）
- ・島の中央部の沈降は継続していますが、火山性地震は比較的少ない状態で、火山活動は静穏に経過しています。
- ⑪ 福徳岡ノ場（やや活発な状況）
- ・7月2～3日に小規模な海底噴火がありました。その後も変色水が度々観測されるなど、火山活動はやや活発な状態で経過しています。

4. 九州地方・南西諸島

- ① 九重山（静穏な状況 【火山活動度レベル1】）
- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。
- ② 阿蘇山（やや活発な状況 【火山活動度レベル2】）
- ・今年4月以降、噴火の発生はありませんでした。
 - ・火山性連続微動の振幅は、時々やや大きくなりました。
 - ・火山ガスは4月14日のごく小規模な噴火に伴い一時的に増加しましたが、その後は静穏期のレベルで経過しました。
 - ・湯だまりの表面温度は高い状態が続いています。
 - ・赤熱現象は9月初めまでみられていましたが、その後の降雨による湯だまり量の増加に伴いみられなくなりました。
 - ・以上のように、熱的活動は依然高い状態が続いており、火山活動はやや活発な状態で経過しています。今後、火山活動が再び活発化する可能性があります。そのような場合、噴石を火口外に放出するような噴火の可能性があります。火口周辺では注意が必要です。今後の火山活動の推移に注意する必要があります。
- ③ 雲仙岳（静穏な状況 【火山活動度レベル1】）
- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。
- ④ 霧島山
新燃岳（静穏な状況 【火山活動度レベル1】）
- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

御鉢（やや活発な状況 【火山活動度レベル2】）

- ・地震、微動活動は静穏に経過しています。
- ・噴気活動は次第に収まる傾向が見られますが依然やや活発な状態で、火山活動は**やや活発**な状態で経過しています。

⑤ 桜島（比較的静穏な噴火活動 【火山活動度レベル2】）

- ・桜島南岳では時折噴火が発生していますが、桜島の噴火活動としては**比較的静穏**な状態で経過しています。
- ・火山性地震及び火山性微動は少ない状態で経過しています。
- ・GPSや水準測量による地殻変動観測では、始良カルデラ(鹿児島湾奥部)の膨張による変化が引き続き観測されています。

⑥ 薩摩硫黄島（やや活発な状況 【火山活動度レベル2】）

- ・噴火の発生はありませんが、噴煙活動がやや活発で、火山性地震が時折増加するなど、火山活動は**やや活発**な状態で経過しています。

⑦ 口永良部島（やや活発な状況 【火山活動度レベル2】）

- ・火山性地震はやや多い状態で経過しています。
- ・新岳火口付近の膨張傾向や熱的活動の高まりを示す全磁力変化が引き続き認められています。
- ・以上のように、火山活動は**やや活発**な状態で経過しています。今後の活動の推移に注意する必要があります。

⑧ 諏訪之瀬島（活発な状況 【火山活動度レベル3】）

- ・噴火は時折発生しており、その中で爆発的噴火も発生するなど引き続き火山活動は**活発**な状態で経過しています。

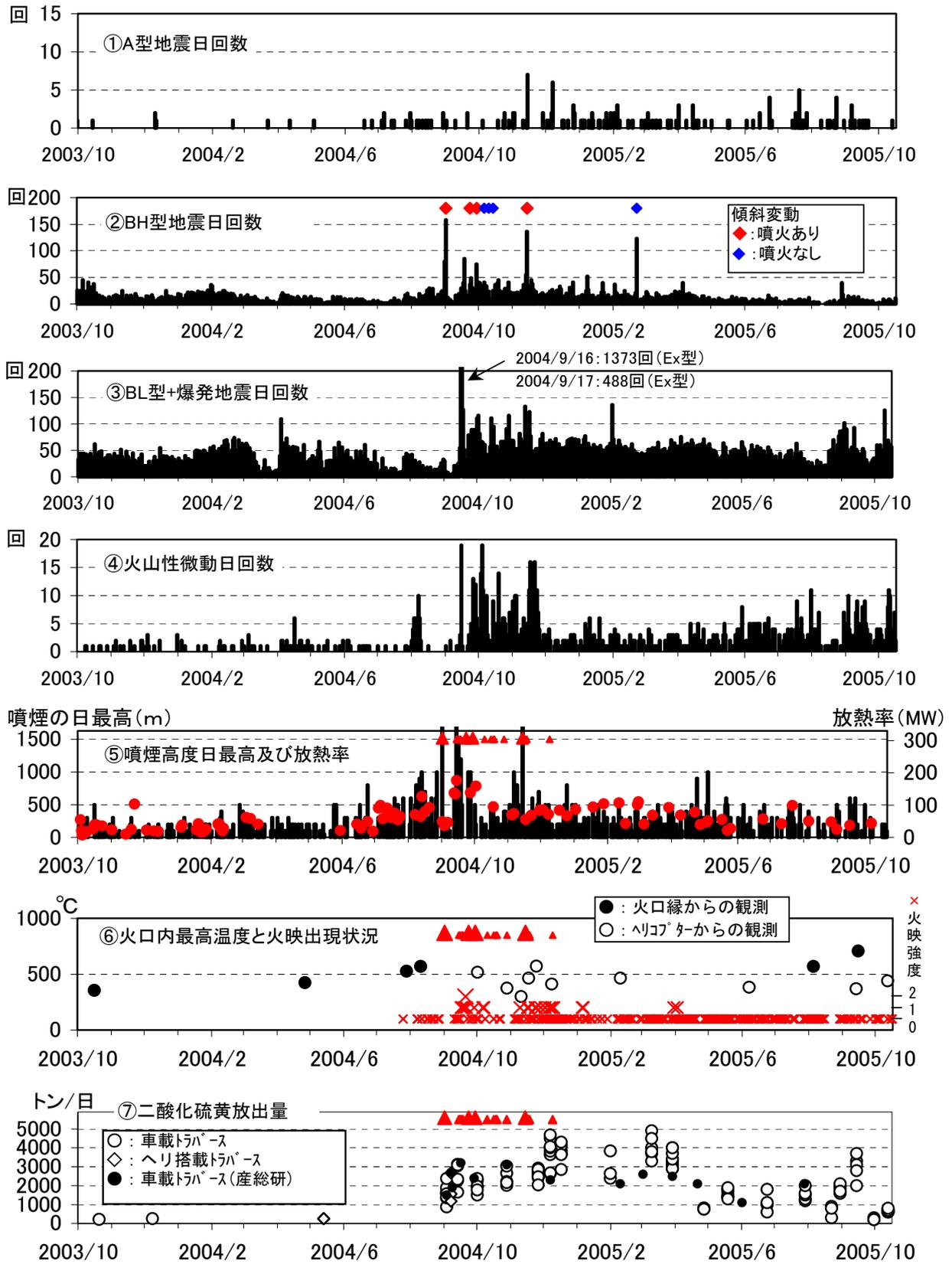
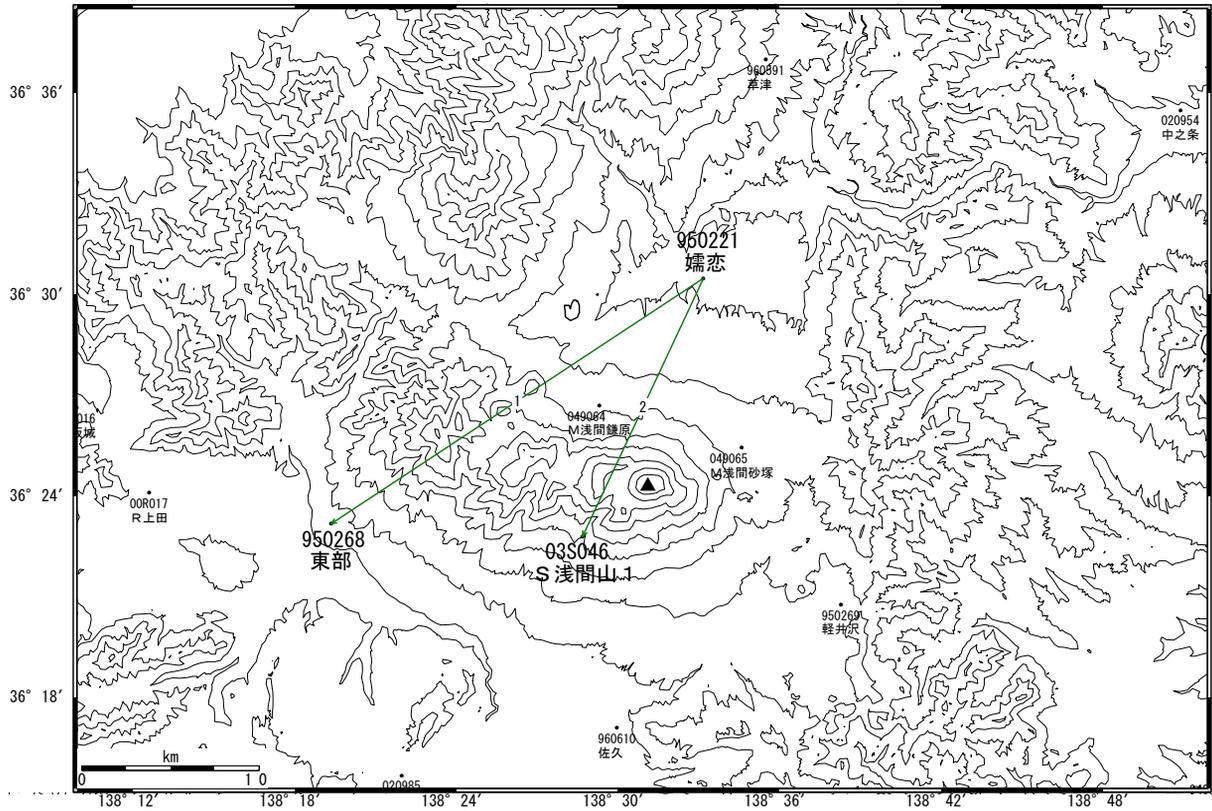


図 1 ※ 浅間山 最近 2 年間の火山活動の推移 (2003年10月 1 日~2005年10月16日)

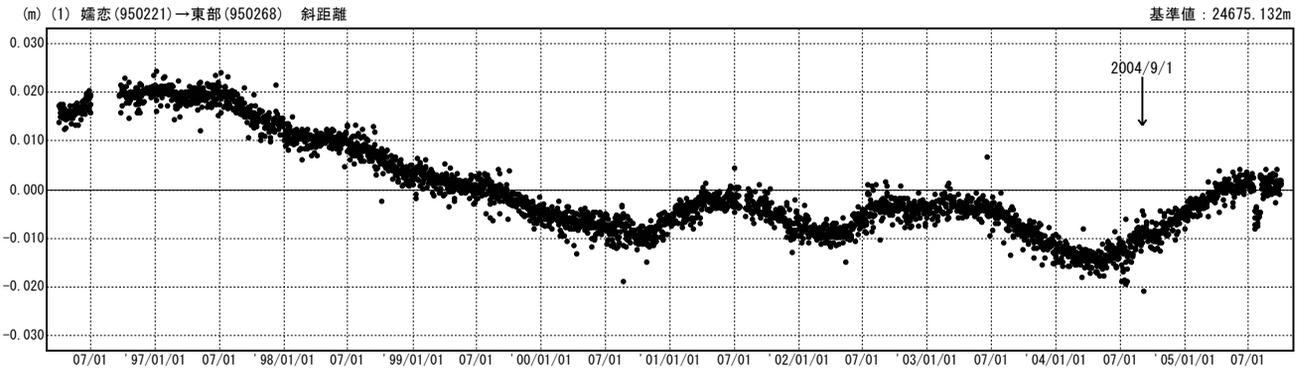
▲は中爆発、△は小噴火以下を示す。二酸化硫黄放出量には産業技術総合研究所による観測データも含まれている。

浅間山周辺 GPS連続観測基線図 (1)



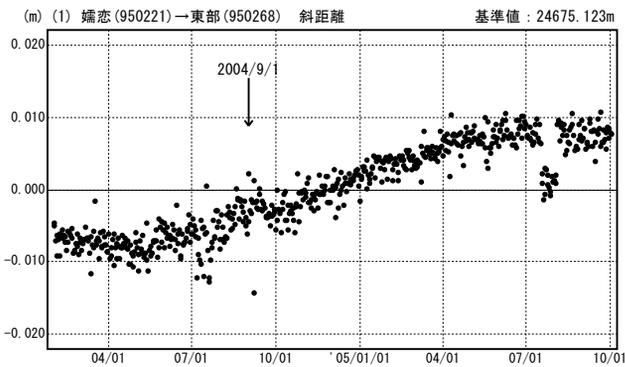
基線変化グラフ (全期間の変動)

期間：1996/04/01～2005/10/01 JST



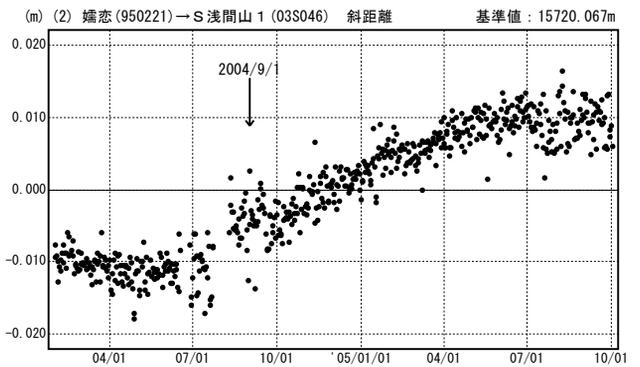
基線変化グラフ (最近の変動)

期間：2004/02/01～2005/10/01 JST



基線変化グラフ (最近の変動)

期間：2004/02/01～2005/10/01 JST



※電子基準点の保守等による変動は補正済み

●---[F2:最終解]

国土地理院

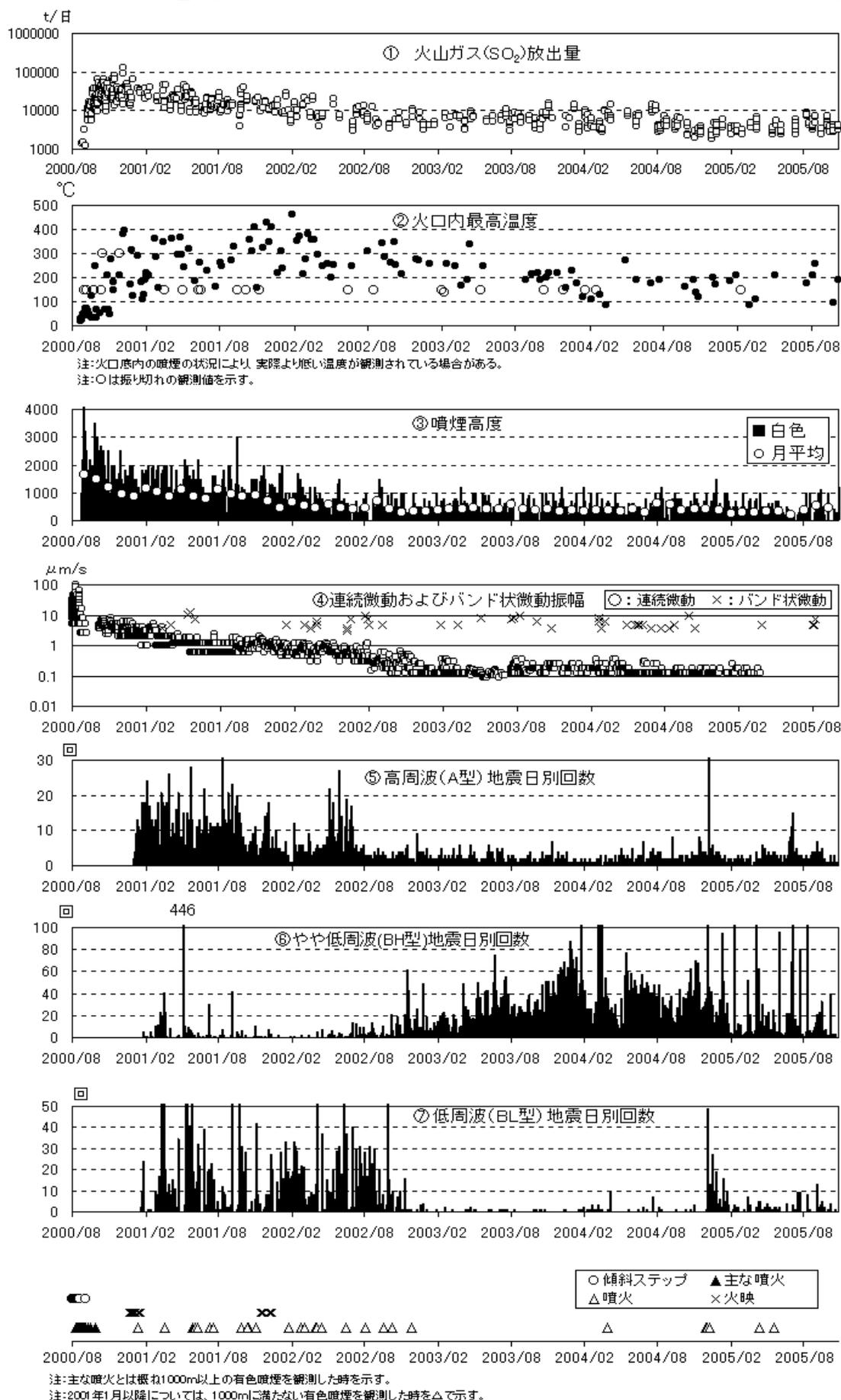


図1 三宅島 火山活動経過図 (2000年8月1日~2005年10月26日)

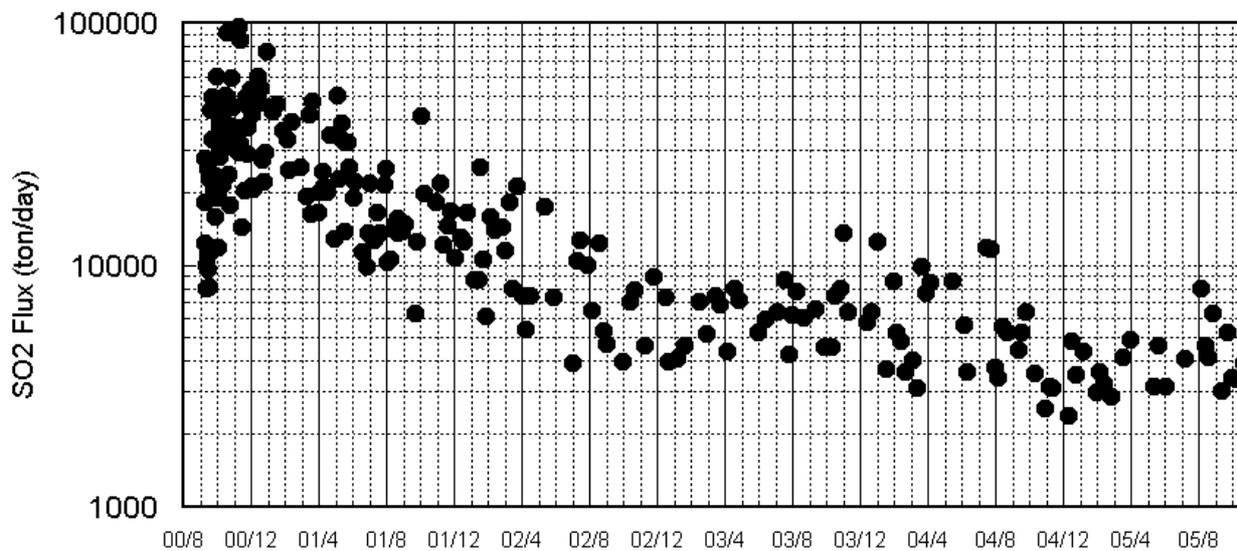


図3 三宅島 二酸化硫黄放出量（同日に複数の観測値がある場合はその平均値）

注2) 気象庁火山課、三宅島測候所、産業技術総合研究所地質調査総合センター及び東京工業大学火山流体研究センターが共同で行った、2000年9月以降のCOSPEC (Correlation Spectrometer) V型 (Resonance 製) による観測及び2005年5月以降のDOAS (Differential Optical Absorption Spectroscopy) による観測結果をもとに作成。

- ・二酸化硫黄の放出量は、8～9月にかけて一時的に1日あたり7～8千トンが観測されたが、おおむね1日あたり2千～5千トンで放出量に大きな変化はなく、依然として多量の火山ガス放出が継続している。

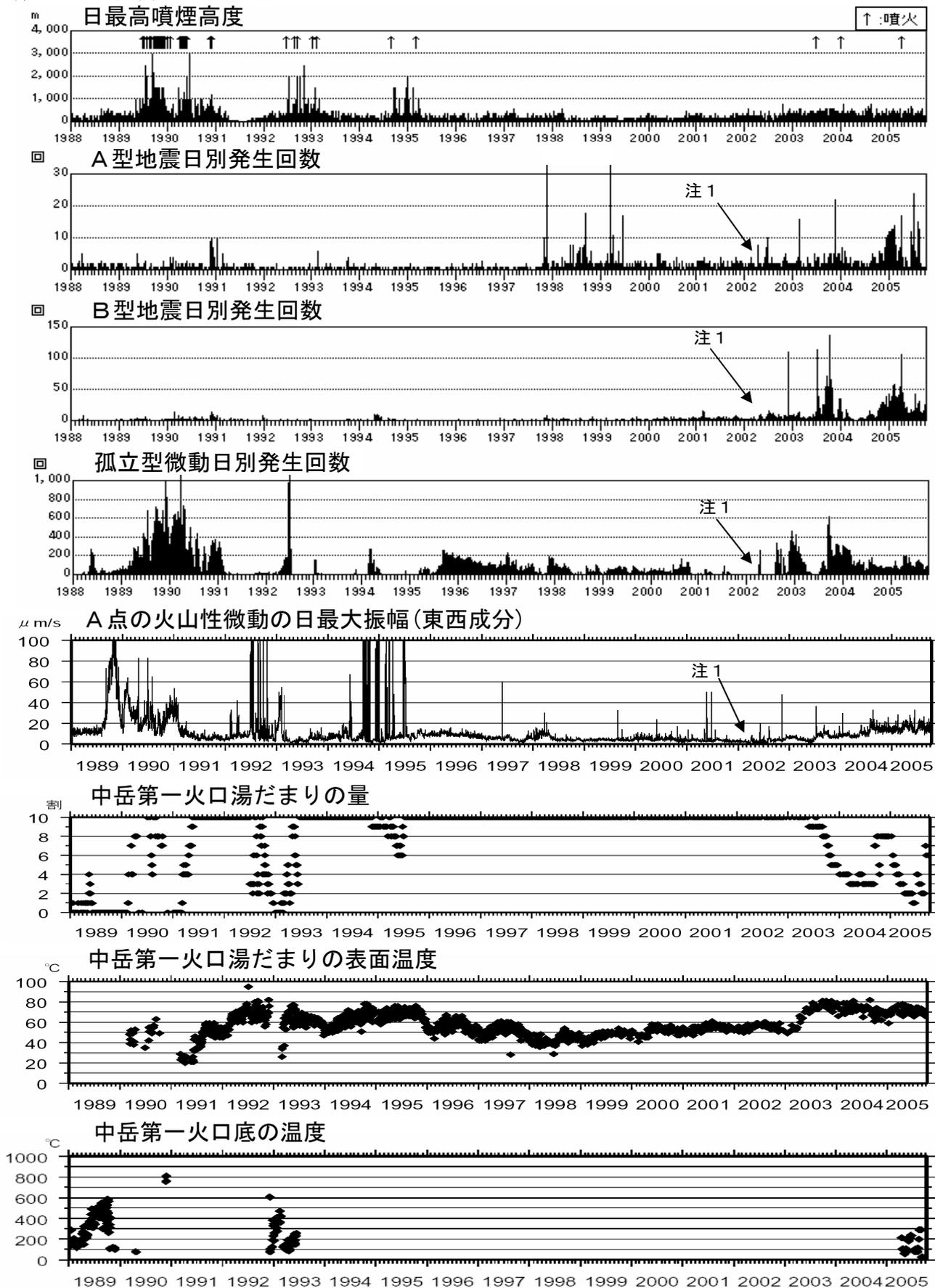


図2 火山活動経過図(1988年1月1日~2005年10月10日)

- 孤立型微動の月回数は、1,791~3,165回であった。
- A型地震の月回数は、7月に83回とやや多く発生した。その他の月は13~55回であった。
- B型地震の月発生回数は、267~394回と前期間(808~1,024回)に比べ減少した。

阿蘇山

注1 2002年3月から検測基準を変位波形から速度波形に変更した。